

# よっ葉だより

2018年  
6月4日号  
No.510

地産地消～いのちと健康



くらしを守る～

よっ葉生活協同組合

## 「ネオニコチノイド系農薬不使用りんごオーナー」 1811人、2612口のご応募、ありがとうございました。

5月11日(金)にアップルファームさみず(長野県上水内郡飯綱町)を訪ねました。2014年度からアップルファームさみずの3軒の農家さんに、ネオニコチノイド系農薬を使わない栽培音をお願いして5年目になります。今年は昨年度から97人増185口増となりました。減収のリスクを抱える生産者を組合員が買い支える「ネオニコチノイド系農薬不使用りんごオーナー」制度は、全国でも例のないものです。オーナーさんからは「他では買えないネオニコフリーの美味しいりんごを毎年楽しみにしています」「生産者の皆さんの努力に感謝しています」など、多くの声をいただいています。アップルファームさみずは、よっ葉生協設立時からのお付き合いがあり、現在は二代目の山下一樹さんが代表です。今年度も山下さんと、関彰さん、浦辺政史さんの3軒の農家が、ネオニコチノイド系農薬を使わないりんご栽培に挑戦してくださいませ。この貴重な取り組みをお願いするため、オーナー継続の組合員から寄せいただいたメッセージカードも山下さんにお渡ししました。「こんなにたくさんの方からメッセージをいただけて、うれしいです」と喜んでくださいました。皆さま、ありがとうございました。



← 関さん(中央)に着果の説明を  
してもらっています。  
右は山下さん



花の右上が  
着果した花



⇒ 支柱を使った「わい化栽培」

山下さん宅ではヤギの  
母子が飼われています

栽培という、支柱を使って除草や収穫、剪定作業などの効率を上げる方法を一部で取り入れています。伝統的な栽培に比べて早い2年目から収穫できます。昨年は台風の影響を受けて支柱が倒れてしまった樹があったそうです。年間を通じて多くの作業を要するりんご栽培では、作業の省力化が急がれているように感じました。

＜理事 三輪＞



⇒ P2へつづく

### 摘果作業の真っ最中

山下さんに案内してもらって、関さん、浦辺さんのりんご園場を見学しました。りんごは枝の先に5～6個の花が咲きますが、この時期は真ん中の中心花を残す摘果(受粉したあとなので“果”を使います)作業の真っ最中でした。山下さんは矮化(わいか)